

## 所在地

奈良市三条大路一丁目5-37

## 開園時間

9:00~17:00(入園は16:30まで)

休園日/水曜日(祝日は開園。後の平日に休園)

祝日の翌日

年末年始(12月26日~1月5日)

## アクセス

近鉄大宮駅から西へ約1km近鉄奈良駅または新大宮駅から奈良交通バスに乗車。

「宮跡庭園」停留所下車すぐ。平城宮朱雀門、史跡朱雀大路跡から東へ約1km。

駐車場はありません。車での来園をご遠慮ください。



## 宮跡庭園の利用について

宮跡庭園を撮影やイベントの会場としてお使いいただけます。詳しくは文化財課までお問い合わせください。

### 奈良市教育委員会文化財課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1

TEL 0742-34-5369



QR Translator



園池全景(上が北)



宮跡庭園敷地図



特別史跡・特別名勝

平城京左京三条二坊  
宮跡庭園

# 特別史跡・特別名勝 宮跡庭園

平城京左京三条二坊





宮跡庭園全景



平城京の条坊と宮跡庭園

## 宮跡庭園とは

宮跡庭園は、昭和50(1975)年の発掘調査で発見された奈良時代の園池を中心とする庭園遺跡です。平城宮の離宮的な施設または皇族等の邸宅(宮)であったとも考えられるため「宮跡庭園」と名付けられました。

保存状態がよく、奈良時代の意匠や作庭技法などを知ることができる、きわめて貴重な遺跡です。昭和53(1978)年に国の特別史跡に指定され、奈良市が庭園の復原整備をおこないました。平成4(1992)年には国の特別名勝にも指定されました。

この庭園は、奈良時代中期(750年頃)に造られ、池の改修や建物の建て替えを重ねながら、平安時代の初めまで存続したと考えられています。現在のものは、奈良時代中期ごろの様子を復原したものです。園池は発掘した本物を露出展示しています。

## 平城京の条坊と宮跡庭園

平城京の街は、道路(大路と小路)が碁盤目状に通っており、道路で囲まれた区画を条・坊・坪で表します。宮跡庭園は平城京の皇居や政務区域にあたる平城宮の南東に位置し、ひとつ分の「坪」全体の中に建物と堀が計画的に建てられています。

敷地の中心には玉石を敷き詰めたS字形の「曲水」を形づくった園池が配され、その西に建物が建てられています。建物から池を眺めたとき、その向こうには春日山や御蓋山といった東の山並みを望めます。

これらの立地に加え、平城宮と密接な関係を示す木簡や瓦などが出土していることから、この場所は公的な饗宴のための施設であったと考えられます。たとえば曲水宴や、海外からの客を招いた宴席などが行われていたのかもしれませんが。

### 石組



汀線沿い五箇所と州浜外縁沿い四箇所に石組を配置。池の中にも三箇所に石を置き岩島としています。

### 植物



堆積土の分析などから、木製柵にはカキツバタ、池近くにはウメが植えられていたとみられます。

### 復原建物



池を鑑賞するためのメインの建物です。現存する奈良時代の建物などを参考に復原しています。

### 露出展示の石



景石は園池の風景の中でアクセントとなるものです。発掘した本物の石を露出展示しています。

## 庭園遺構について

庭園の中心は石組の園池です。底に粘土を敷き、その上に径20~30cmの扁平な石を敷き詰めます。汀には玉石を列状に並べて池の輪郭を描き、この玉石列の外側にも石を並べて緩やかな勾配の



復原想像図

州浜状に仕上げています。水深は20~30cmと浅く、水の流れはゆっくりしたものだったようです。池の形については、龍の姿を模したという説や奈良県吉野町宮瀧付近の吉野川の形状を写したという説などがあります。

池が屈折する要所要所には大きな石組を配置し、池の中にも三箇所に石を置いて岩島とし、アクセントをつけています。池底の二箇所には水生植物を植えたと思われる木製の柵が据えられています。

池への給水は、もともとこの地を南北に流れていた菰川か、池の北西方にある井戸を水源としていたと思われる。供給された水は、池本体の北側に造られた石組部(小池)で一旦水を溜めて、池本体に流す構造になっています。

池の周囲でみつかった建物や堀などの遺構は保存のため埋め戻し、その上に建物復原や平面表示の手法で表現しています。

## 保存修復事業

修復事業は平成19(2007)年から14年かけて行われました。当初の復原整備から約30年が経過したため、復原建物・堀・園路などを含め庭園全体に破損が生じ、特に園池では景石に亀裂や劣化がみられるようになりました。発掘された庭園で園池全体を露出展示している例は他になく、本格的な修復事業についても初めての試みとなりました。



修復の計画を立てるため、事前に破損の原因等を調査する。



古くからある三又という道具を使って景石を慎重に取り外す。



景石は薬割で強化したのち、破片の接合・亀裂の補修を行う。



景石の模型を使うなどして、据え戻し方法を検討する。



取り外し前の測量データをもとに、景石を正確に据え戻す。